



星美学園
小学校
第522号

青少年の父
ドン・ボスコの月

聖書

「平和のために働く人は幸せである。
彼等は、神の子と呼ばれる」

マタイ五章九節

『We are Seibi Family!』

教諭 中上 晴絵

明けましておめでとございます。全国的に穏やかな晴天に恵まれた地域が多かった年明け、ご家族の皆様お揃いで良い新年を迎えられたことと思います。

今年も酉年。干支は古代の中国から伝わったと言われています。この干支に動物を当てはめるようになったのは紀元前四〜二世紀頃のことです。酉年には「鶏」が当てられました。鶏は夜明けを知らせる鳴き声を響かせることから、中国では吉兆をもたらす動物とされています。日本でも、鶏は新たな時代を開いていく吉祥のシンボルであり、新しく物事を始めたり、挑戦したりするのにふさわしい年とも言えるそうです。アメリカでは新大統領が就任し、トランプ政権が始まる年、世界的にも新しい風が吹くことが予想されます。

星美学園の設立母体となるサレジオ会では、ドン・ボスコの時代からの習慣で、毎年、新年にあたり、総長様から、「ストレンナ」と呼ばれる「サレジオ家族の年間目標」が発表されます。ストレンナとはイタリア語で「贈り物」を意味する言葉です。サレジオ家族へのお年玉と言ってもいいでしょう。

二〇一七年のストレンナは「We are Family! Every home, a school of life and love」（わたしたちは家族！「家庭」は命と愛の学び舎）です。

ドン・ボスコの精神の元に教育活動を行う学校の教員として子どもたちを迎えるにあたり、私たちは、先日、サレジオ会の佐藤直樹神父様と共に研修会を行い、ストレンナについてお話を伺いました。そこで改めて考えさせられたことは、家族とは何かについてです。

誰にでも、皆、父と母がいます。そして、生まれたばかりの赤ちゃんが出会う最初の社会が家族です。家族の中で

子どもは多くのことを吸収していきませんが、家族という環境がどのようなものであるのかによって、心の成長や人格の形成に違いが出てくると思われれます。

今年もストレンナの要約から引用すると、「私たちは皆、家庭に生まれ、そのふとところで成長し、おとなになります。家庭は、私たちが愛されていると実感し、優しさを体験し、感謝すること、ゆるしを願うことを学ぶ生活の場」とあります。

研修の場で、神父様は次のようなことを語ってくださいました。

・「共にいること（アシステンツァ）」という意味は、物理的に一緒にいるだけでなく、家族のメンバーが、同じ方向を向いて進むことであり、同じ価値観をもって生きることが大切だということ。

・子どもは、たとえ反抗したとしても、本当は善いことや正しいことを求めているもので、それを習得させていくためには、忍耐と愛情をもって接する必要があること。また、価値観を共有するためにも、周りにいる大人から、善いことを積極的に示していくこと。

・人格を尊重し、個を受け止めること。そのためには対話によるコミュニケーションを大切に、互いに理解し合えるように心がけること。

これらの話を伺う中で、学校という場は、いろいろな家庭から子どもが集まる場ではありますが、マリア様に導かれて集まった子どもたちと「星美ファミリー」としての関わりを深めていきながら、私たちから善を教え、自ら進んで善を選べる子どもを育てていきたいと強く感じました。

今日から三学期が始まりました。今年度の仕上げの時期でもあるこの時を、子どもたちと共に、また保護者の皆様と共に、家庭的な温かさを常に大切にしながら歩み、次の学年へと大きく羽ばたけるよう、喜びと希望をもって過ごしていきたいと思えます。

「チマツチ神父の生涯」



チマツチ神父は、新しい事業を始めた。戦後の日本は、路上で腹を空かせ、見捨てられた被災孤児であふれていた。心を痛めたチマツチ神父は、「ドン・ボスコのように」を合言葉に、この子どもたちのために献身する若い会員のグループを作り、養護施設を開設した。その活動は、かなり評価され、現在にまで発展している。また、学校や教会を建て、教会学校にも力をいれた。この活動の他に、出版事業にも力を入れ、年々、出版物は増えていった。

これらの事業開始のことをチマツチ神父は、世界中に発信し、日本管区の様子も世界中に知られ、評価されるようになった。中でも、チマツチ神父は、会員の活動を詳しく紹介し、心から会員たちを褒めているが、事業の原動力、指導者であったチマツチ神父本人の名前は、一度も出てくることはなかった。

一九四七年、サレジオ会総会議が行われた。参加者の中には、彼の人となりを知る教え子も多数出席していて、養成指導者に選出されそうになったが、彼はその空気を察知して、わざと高齢で弱々しい態度をとっていた。しかし、選挙が終わると、六十八才の彼はいつも通りの若々しいチマツチ神父に戻っていた。

数年後、そのことを思い出させ、「もし、あの時、養成指導者に選ばれていたら、何をしたらでしょうか」と質問すると、「養成指導者をやめたでしょう」と答えたのであった。

第五十回世界平和の日 教皇メッセージ

カトリック教会では、毎年一月一日を「世界平和の日」と定め、教皇フランシスコから全世界に向けメッセージが送られます。今年も、「非暴力、平和を実現するための政治体制」と題され教皇様は呼び掛けていらつしやいます。尚、紙面の都合でその一部を掲載いたします。

新年の初めにあたり、わたしは世界中の民族と国民、諸国政府の指導者、そして諸宗教と市民社会のさまざまな分野の責任者の皆さんに、平和へのわたしの切なる願いを伝えます。わたしはあらゆる大人と子どもにも平和が訪れるよう望んでいます。そして一人ひとりの人間に刻まれた神の似姿により、わたしたちが互いを限りない尊厳を与えられた神聖なたまものとして認め合うことができるよう祈ります。とりわけ、争いにまみれた状況の中で、「尊厳への深い敬意」を抱き、積極的な非暴力に基づく生き方を実践しましょう。

《福音》について

イエスご自身も暴力に満ちた時代に生きていました。しかし、暴力と平和が遭遇する真の戦場は、人間の心であると、イエスは教えてください。「中から、つまり人間の心から、悪い思いが出て来るからである」(マルコ7・21)。しかしこうした現実に対して、キリストのメッセージは、非常に前向きな対応策を示します。イエスは神の無条件の愛、受け入れてゆるす愛をつねに説きました。そして敵を愛し(マタイ5・44参照)、もう一方のほおをも向けるように(マタイ5・39参照)弟子たちに教えました。

イエスの福音を受け入れる人は、だれでも自分自身の中に暴力があることを認め、神のいつくしみによっていやされ、それにより今度は自分が和解の道具になります。アシジの聖フランシスコのことばにある通りです。「口で平和を告げるように、あなたたちの心にはそれ以上に大きな平和があるようにしてください」

(カトリック中央協議会 参照)

1月行事予定

10日(火) 始業式・み言葉の祭儀・発育測定

13日(金) 漢字検定

16日(月)～17日(火)

到達度テスト(1年～5年)

17日(火) ホームステイ学習会③

18日(水) 学級委員紹介式

19日(木) マラソン練習開始

21日(土) 英語検定

25日(水)～28日(土)

5年雪の学校

26日(木) 星の会③ 歩む会⑤

28日(土) 新1年生保護者会①

31日(火) ドン・ボスコの祭日・ごミサ

【ベルマーク整理】

17日(火) → 2B

18日(水) → 2C

19日(木) → 2A

よろしくお願ひ致します。

学級委員紹介式

今年度最後の学級委員が紹介されます。

学級委員を中心にクラス全員で協力し合い、楽しい学校生活を送れるよう努力していきます。ご支援ご協力をお願い致します。

5年生 雪の学校

25日(水)～28日(土) 3泊4日、尾瀬戸倉スキー場、たくみの里で雪国の文化やそこで暮らす人々と触れ合う生活を体験してきます。安全で実りの大きい体験となりますようにお祈りください。

5年生のみ、30日(月)は10:30登校になりますのでお間違えのないようお願い致します。

詳しくは、学級通信でご確認ください。



ドン・ボスコの祭日・ごミサ

1月31日は創立者 聖ドン・ボスコを祝うミサがささげられます。今年も、公務のため来日されておられるバチカン市国国務省で外交担当を務めておられるポール・リチャード・ギャラガー大司教様が来校され、小学生とごミサを立ててくださることになりました。

“青少年の父・教育者”であるドン・ボスコを父と仰ぐ本校にとって、大変、光栄あることと感じます。又、世界130ヶ国以上の国々の子ども達の祈りとよろこびの歌がドン・ボスコをたたえて1日中ささげられることも記憶したいと思います。